

「中央本線の車窓(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

現在の新宿駅からは、長距離の普通列車の発着は一本もない。下りホームでは、高尾行き、大月行き、青梅行き、稀に河口湖行きの快速電車ひっきりなしに発着している。しかし、特急列車は健在だ。松本行き、甲府(竜王)行き、大糸線直通の特急の始発駅となっている。



私が乗った「スーパーあずさ号」は、最新型の在来線特急で、ダースベーターのようなツラガマエをしていて、いかにも近未来特急といった感じである。社内も広々としていて、普通車でも、一昔前のグリーン車に匹敵する乗り心地だった。



JRの在来線の線路の幅は、1メートルと67mmしかない。こんな狭軌の線路で、しかもカーブの多い中央本線にあって、甲府まで1時間半で快走するのだから、日本の鉄道技術は実に素晴らしい。



勝沼を過ぎると、左車窓に甲府盆地が広々と見えるようになる。私はかつてこの地点で「海だ!」とふざけて叫んだことがある。乗客の大半は「どこどこ?」とキョロキョロしていた。もちろん山梨に海はない。



塩山駅が近づくと、ブドウ畑越しに、平地の中にポツンと出っ張った、よく目立つ山が見えてくる。



これが塩山市(現在の甲州市塩山)の名の由来になった「塩ノ山」である。実は、この山の成り立ちや、山名の由来がなかなか興味深いのだ。